

三小だより

6月号

コミュニケーション力を高めよう

校長 藤本 賀津雄

今、インターネットを利用した買い物がとても便利な時代になっています。先日もインターネットでショッピングを検索してある品物を注文しましたが、商品が翌日にはもう配達されてきます。値段も店頭で買うよりも安くなっています。しかも代金の支払いは後日銀行の口座から自動的に引き落とされるのです。便利な時代だなと思いますが、ちょっと考えてみてください。買いたい商品を選んで注文してから代金の支払いまで、一言もしゃべらないで買い物ができてしまうのです。

また、子どもの遊びを考えてみてください。今、DSなどのテレビゲームで遊ぶ子どもが多くなり、屋外で鬼ごっこやドッチボールなど子どもたちが群れて遊ぶ光景を見かけることが少なくなりました。集団で遊ぶ時には言葉が必要になりますが、テレビゲームで一人遊びをする分には言葉は使わなくて済むのです。つまり、大げさにいえば、言葉がなくても生きていける時代になったということです。

しかし、いくら便利な時代になったとはいえ、人間は本来一人で生きていけるようにはできていません。最近切れやすい子が増えているといわれます。それは、語彙が少なく、自分の思いや気持ちを相手にうまく伝えられなくてイライラし、感情的になってしまうのです。こういう時代だからこそ、コミュニケーションの力をつけてやる必要があるのです。



昔の子どもたちは生活の中で自然とコミュニケーションの能力が育てられていたのです。しかし、今は学校や家庭、地域で意図的にコミュニケーションの力を育ててやる必要があります。

三小では、本年度のめざす子ども像として「いつでも どこでも だれにでも 自分の思っていることを はっきり伝えることができる子」としました。学校という集団生活の中では、自分さえ良ければいいという考えは通用しません。時にはわがままを通したために友達とトラブルになることもあるでしょう。しかし、そういう時こそ学ぶチャンスなのです。自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちを理解したりして、コミュニケーション力を育てていくことが大切です。このようなとき、子どもに代わって親が登場し、子どもの代弁をしたりすると、子ども自身の学習にはつながりません。いじめ問題の場合は別として、子ども同士のちょっとしたトラブルなどは学校と家庭が連携して見守っていただくぐらいの心のゆとりを持ってほしいと思います。

一方、ご家庭におかれましても、子どもにコミュニケーション力を育てるためのご協力をお願いしたいと思います。それは、忙しい中でもちょっと手を止めて、子どもの話にじっくりと耳を傾けてやってほしいということです。「後で」と言ったら、子どもは話したかった内容を忘れてしまいます。その場で、子どもの気持ちを受け止めてやったり、ご家族の方の願いをわかりやすく話してやったりする中で、子どもの語彙が増え、コミュニケーション力が育つと思います。